

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	小倉聴覚特別支援学校 幼稚部	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★
------	----------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.8 /5		がんばろう!
2 地球温暖化対策の推進	3.9 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.0 /5		がんばろう!
4 高齢社会への対応	4.0 /5		よい

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満	
---	-------	----------------	--	-----------------	--	-------------------	--

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版 使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)

1 循環型社会への貢献		スコア平均 2.8
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.6	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性
<自由記述>		<自由記述>
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 4.0
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.9	LR2/ 1.1 節水 スコア 4
<自由記述>		<自由記述> 節水型便器使用、女子便所に擬音装置設置
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.0
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善
<自由記述>		<自由記述>
4 高齢社会への対応		スコア平均 4.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 4	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級
<自由記述>		0.51
建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)を満たしている。		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: -
		0.65
		外構緑化指数 建物緑化指数
		0 % 0 %



: 入力欄



: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小倉聴覚特別支援学校 幼稚部棟	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市小倉北区三郎丸2丁目	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、法22条区域	平均居住人員	XX人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年10月 予定	評価の実施日	2022年7月1日
敷地面積	20,218 m ²	作成者	平建築設計事務所
建築面積	814 m ²	確認日	2022年7月1日
延床面積	2,096 m ²	確認者	〇〇〇

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 0.8 ★★☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★ B: ★★★ B+: ★★ C: ★</p> <p>BEEランク&チャート</p> <p>環境品質 G: 34 環境負荷 L: 42 BEE=1.0</p>	<p>30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>76%</td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもので</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	76%	③上記+②以外の	76%	④上記+	76%	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境 Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー LR3 敷地外環境</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>Q のスコア = 2.3</p>
①参照値	100%									
②建築物の取組み	76%									
③上記+②以外の	76%									
④上記+	76%									

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質
Q1 室内環境
Q1のスコア = 2.7
音環境 2.6 温熱環境 2.6 光・視環境 2.7 空気質環境 3.0
Q2 サービス性能
Q2のスコア = 2.8
機能性 2.6 耐用性 2.9 対応性 3.1
Q3 室外環境 (敷地内)
Q3のスコア = 1.4
生物環境 1.0 まちなみ 2.0 地域性・ 1.0
LR 環境負荷低減性
LR1 エネルギー
LR1のスコア = 3.9
建物外皮の 5.0 自然エネ 3.0 設備システ 4.5 効率的 2.0
LR2 資源・マテリアル
LR2のスコア = 2.7
水資源 3.4 非再生材料の 2.6 汚染物質 2.5
LR3 敷地外環境
LR3のスコア = 3.0
地球温暖化 3.9 地域環境 2.2 周辺環境 3.0

3 設計上の配慮事項

総合	その他
Q1 室内環境	Q3 室外環境 (敷地内)
LR1 エネルギー	LR3 敷地外環境

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
小倉聴覚特別支援学校 幼稚部棟

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境					0.40		-	
1 音環境				2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル	-			3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音	-			2.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	-			1.0	0.30	3.0	-	
2 界壁遮音性能	-			3.0	0.30	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-			2.0	0.20	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-			3.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音	-			3.0	0.20	3.0	-	
2 溫熱環境				2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御	-			2.2	0.50	-	-	
1 室温	-			3.0	0.60	3.0	-	
2 外皮性能	-	記入例: エアフロー・ウインドウの採用		1.0	0.40	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	-			3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御	-			3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式	-			3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				2.7	0.25	-	-	2.7
3.1 昼光利用	-			3.0	0.30	-	-	
1 昼光率	-			3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口	-			3.0	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	-			3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策	-			2.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	-			2.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	-			3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御	-			3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				3.0	0.25	-	-	3.0
4.1 発生源対策	-			3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	-			3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気	-			3.0	0.30	-	-	
1 換気量	-			3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能	-			3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	-			3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理	-			3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	-			1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	-	学校敷地内では完全に禁煙としている。		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8
1 機能性				2.6	0.40	-	-	2.6
1.1 機能性・使いやすさ	-			4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	-			3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	-			3.0	-	3.0	-	
3 パリアフリー計画	-	移動円滑化基準チェックリスト		4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性	-			1.5	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	-			2.0	0.50	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	-			3.0	-	-	-	
3 内装計画	-			1.0	0.50	3.0	-	
1.3 維持管理	-			2.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	-			2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	-			2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振	-			3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-			3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数	-			2.8	0.30	-	-	
1 車体材料の耐用年数	-			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-			2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-			3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-			3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-			3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性	-			3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	-			3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	-			3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	-			3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	-			3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	-			3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性		3.1	0.30	-	-	3.1
	3.1 空間のゆとり		3.4	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	-	3.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	1階を基準階として算出	4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	1.4
	1 生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	1.0
	2 まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40	-	-	2.0
	3 地域性・アメニティへの配慮		1.0	0.30	-	-	1.0
3.1	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	1.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			4.5	0.50	-	-	4.5
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		-	1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器使用、女子便所に擬音装置設置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減		-	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		外部に面する内壁の仕上をGL工法としている	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.5	0.20	-	-	2.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.3	0.70	-	-	
1 消火剤		-	2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.33	-	-	
3 冷媒		CO2冷媒冷凍機	2.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		-	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.2	0.33	-	-	2.2
2.1 大気汚染防止		敷地内において燃焼機器の使用なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		-	3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音		-	3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		-	1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	